



令和7年度  
京都府総合  
教育センター

令和の日本型学校教育を実現する  
「新たな教職員の学びの姿」を「教職員研修システム」を通して支える研修へ

4月14日から  
教職員研修システム  
スタート

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」を受けて、京都府総合教育センターでは令和5・6年度に、教職員の学びの充実に向けて、取り組んできました。

これまで以上に、各教職員が研修講座の情報に自らアクセスし、申込を行い、より主体的に学んでいくことができるよう、令和7年度から、京都府で新たな「教職員研修システム」を導入しました。研修形態においても、従来の集合研修・オンライン研修・オンデマンド研修等に加えて、オンライン研修の「見逃し配信」や「後日配信」も加えてより一人一人の教職員が学びやすい環境を整備しました。また、多種多様な優良動画コンテンツを当センターのオンデマンド研修講座として位置付け、単位履修できるシステムも開始します。ぜひ御活用いただき、日々の教育実践をより一層充実させていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

京都府総合教育センター 所長 山本 康一

京都府総合教育センターでは、「令和の日本型学校教育」を担う教職員の支援をミッションに、研修講座を実施します。

## 「新たな教職員の学びの姿」とは？

### 主体的な姿勢

変化を前向きに受け止め、  
探究心を持ちつつ  
自律的に学ぶという姿勢

### 継続的な学び

求められる知識技能が  
変わっていくことを  
意識した学び

### 個別最適な学び

新たな領域の専門性を身に  
付けるなど一人一人の個性に  
即した「強み」を伸ばす学び

### 協働的な学び

他者との対話や  
振り返りの機会を  
確保した学び



「令和の日本型学校教育」では、「すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」を目指しています。子どもの学びと教師の学びは「相似形」と言われています。教職員の学び（研修観の転換）の経験がロールモデルとなり、子どもの学び（学習観・授業観）が転換すると考えています。

令和7年度センター研修講座はどう変わる？

## 「新たな教職員の学びの姿」の実現のための6つのポイント



### 01 新たな研修システムの導入

・多様化する研修内容・形態へ対応し、自ら主体的に研修に取り組める環境を用意します。※総合教育センターだより第162号に紹介あり

### 02 「探究型」教職員研修の拡充

・教職員自身の「探究する力」「探究的な学びをデザインし、マネジメントする力」を向上する講座を拡充します。（全7講座）

### 03 研修機会の充実

・オンライン講座の一部を「見逃し配信」します。（全36講座）  
・Web上の優良コンテンツを「Webコンテンツ視聴研修」として実施します。

### 04 校内研修の充実に向けた取組

・センター研修の一部を、学校等での校内研修や各種会議、学習会等で活用できるように整備します。（全64講座）

### 05 学校DXの推進をサポート

・学校DX研修を令和7年度も継続実施します。（全43講座）  
・京都府デジタル学習支援センターと連携して実施する講座を設定します。

### 06 所内Wi-Fi環境の活用

・子どもたちの学習環境と同様に、教職員も一人一台端末を活用した研修を実施し、実践力向上を図ります。